

箱崎まちづくり新聞

発行者：箱崎まちづくり委員会
電話 651-7708
(箱崎公民館)

九州大学跡地利用の検討状況について

10月20日に「第9回箱崎キャンパス跡地利用協議会」が開催されましたので、その内容を報告します。

1. 公共施設配置計画について

(1) 公園

1) 目的

・南エリアの身近な公園不足の解消、および貝塚駅の駅前広場の整備、にぎわい・交流機能導入とあわせた貝塚公園の再整備により、地域住民の利便性向上を図る。

2) 配置の考え方

- ☆身近な公園が不足する南エリアに新規整備
- ☆現貝塚公園付近に一部を再整備

(2) 箱崎中学校

1) 目的

・校区の端に立地し、通学路の危険箇所（クランク状の踏切、都市高速の高架下）や、河川に接する不安などの課題解消に向け、箱崎キャンパス跡地のまちづくりにあわせて跡地へ移転。

2) 配置の考え方

・良好な教育環境、防災上の向上、施設整備のスピード感を総合的に判断し、新規整備する公園と近接し、防災面の連携が期待できる。また、最短で平成34年度に施設整備の開始が可能である。

☆箱崎中学校を上図の**案1**に配置。

2. 都市基盤の整備手法・主体について

(1) 北エリア(約20ha)

- ・貝塚公園、箱崎中学校の市有地や公共施設（地下鉄）などが多く占める。
- ・貝塚駅周辺を含む脆弱な都市基盤の解消および総合的な交通結節機能の強化が必要。
- ・貝塚公園や箱崎中学校などの公共施設の再配置と移転跡地の活用が必要（跡地の売却）。

☆貝塚駅を中心に、換地方式により区画形質の変更を行う土地区画整理事業により整備

(2) 南エリア(約30ha)

- ・大学の移転が既に完了しているところがあり、周辺地域が望む迅速なまちづくりが可能。
- ・広域的な道路ネットワーク及びまちの骨格を形成する都市計画道路の整備が必要。
- ・土地の所有状況を踏まえた、開発行為による迅速な都市基盤整備、また、開発行為とあわせた都市計画道路の整備



☆『九州大学』は、民間事業者等へのヒアリング結果を踏まえ、都市基盤整備を進めるための適切な共同事業者として『UR都市機構』を選定。福岡市は、『UR都市機構』による都市計画道路等の『直接施行制度』を活用することとし、同機構へ要請。

3. 土地処分スケジュールの見直し

○南エリアは、まちづくりガイドラインを踏まえ、都市計画変更後の『H31年度』に公募を開始。

○北エリアは、整備手法の検討を踏まえ、『H32年度』以降に公募を開始。

※九州大学は、一体的なまちづくりや都市計画の観点から、平成29年度公募をとりやめた。

4. 作業部会での検討事項

現在、跡地利用協議会の作業部会において下記の内容を検討しています。

①まちづくりマネジメント部会

- (1)活動内容の検討
- (2)既存自治協議会等との連携の検討
- (3)継続的な活動に向けた検討
- (4)組織形態の検討

②まちづくりルール部会

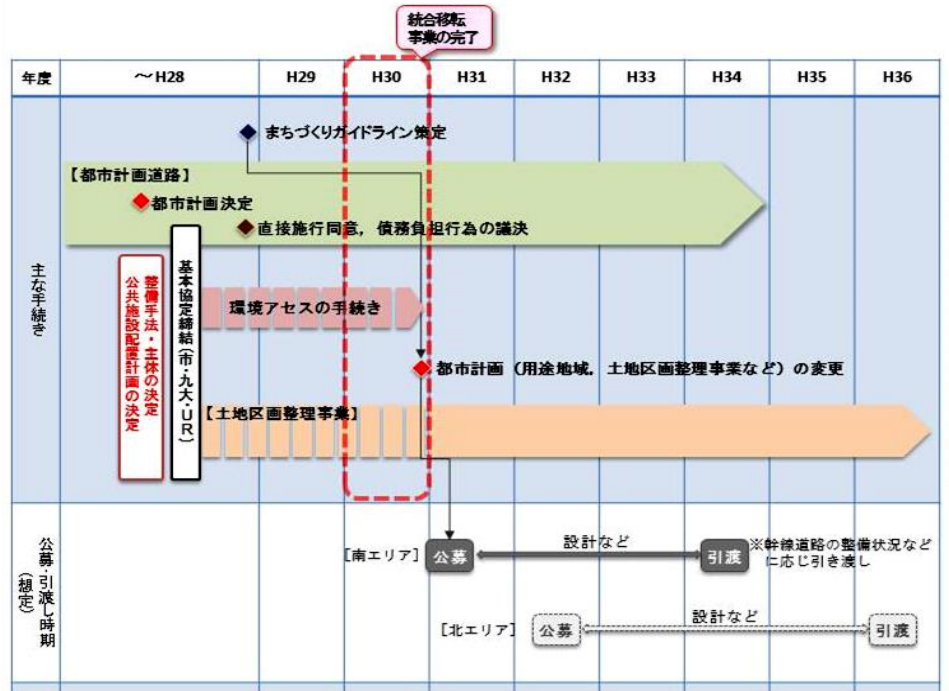
- (1)歩行者ネットワーク・オープンスペースの確保
- (2)緑空間の創出（緑化）
- (3)街並み景観（景観）
- (4)土地利用の誘導

③歴史と緑の継承部会

～大学100年の歴史と緑の継承に向けた検討～

○跡地全体の将来計画や土地利用を見据えた近代建築物と既存樹木の保存・利活用に向けた検討

- (1)景観、ゾーニング計画にあわせたランドスケープ計画
- (2)事業主体による活用しやすい仕組みの検討



箱崎まちづくり計画の検証及び策定-福岡市のコンサルタント派遣制度を活用-

平成18年に策定した「箱崎まちづくり計画」を策定後の校区の動向を検証し、新たなまちづくりの課題を整理・共有することにし、福岡市地域まちづくり推進要綱における「地域まちづくり計画」の制度のもと、まちづくりの課題解決に向けた取り組みをスタートすることにしました。

- ①H18計画の検証と新たなまちづくりの課題の整理
- ②校区の将来像検討、まちづくり憲章の策定、まちづくりの方向性検討
- ③地域まちづくり計画、特定まちづくりルールの策定

まちづくり委員会からイベントのお知らせ

●箱崎発見！ウォークラリー交流大会

共催：福岡県レクリエーション協会、自治会連合会健康づくり委員会

- ・日時 平成28年11月23日(水)<勤労感謝の日> 受付9時 スタート10時 閉会式12時半
- ・場所 箱崎公民館スタート 箱崎校区一円
- ・参加料 200円 (小学生以下 無料)

●クリスマスイブ祭

- ・日時 平成28年12月23日(金)<天皇誕生日> 16時半開始
- ・場所 箱崎公民館